

園のリーダーのために

保育ナビ

2022
JUNE
<3/12>

6

「保育者の感度」について考える

特集

地域別持続可能な園になるために 2022
特別編 編集委員会報告
「保育の歴史的
自己評価を
めぐって」

保育園新米園長が、
園長の仕事を考える
職員の個人面談

実況中継
園内研修のプロセス
園内研修、
初期の課題

Hoiku
navigation

巻頭

フレーベルのこぼば 汐見稔幸 小西貴士

スペシャル対談

主 保育者も正しい理解を

孤立を防ぎ、人と地域をつなぐ

ソーシャルインクルージョン …… 4

炭谷 茂 (社会福祉法人恩賜財団済生会理事長)
増田まゆみ (湘南ケアアンドエデュケーション研究所所長)

特集

「保育者の感度」について考える

佐伯 胖 井桁 容子

保育悩みのタネ …… 20

秋田喜代美

保育ナビらじお …… 22

大豆生田啓友 小西貴士

私の園の自慢の給食 …… 23

社会福祉法人仲田会

ミーム保育園

遊びが育つ保育 …… 24

保育者が提案するクラス活動と遊び

河邊貴子

主 0・1・2歳児の保育のきほん …… 28

〜こころの育ち編〜

井桁容子

園のかたち SPECIAL …… 30

渡辺 悟



保育において感じる力＝「保育の感度」は保育者の重要な資質の1つですが、「保育者の感度をどう高めたらよいか」という声があります。そこで、過去の本誌連載や実践事例などからエッセンスを抜き出し、「保育者の感度」について考えます。

保育ナビが
伝えたいこと

素早く動くことと どっしりと構えること

保育は日々、様々なことが起こります。感動することも大変なことも同時に起こるので、素早く動くことが求められます。そんな時に力を発揮する「保育者の感度」を特集で取り上げています。一方で、どっしりと構えること、つまり、保育の土台を支える保育観や、保育の歴史や社会の中で保育を捉える視点をもつ重要性も、6月号ではいくつかのコーナーで取り上げています。—— 保育ナビ編集部

▶ マークのついているコーナーは毎月、保育ナビ倶楽部メールマガジン(年間購読特典)にて動画のご案内を配信します。ぜひ、ご登録ください!



【今月のおすすめ】

園長・主任・学年リーダーにおすすめのコーナーを選んでマークを表示しています。

園 園長 主 主任 リ 学年リーダー

国の動き

国の動きを読む！
研究者の目2022 …… 34
文部科学省・内閣府編
大方美香

地域別 持続可能な
園になるために2022 …… 36
〔特別編〕編集委員会報告
保育の歴史的自己評価をめぐって

園経営

コンサルタントが読み解く
新時代の園経営 …… 42

桑戸真二 大嶽広展

保育園 新米園長が、
園長の仕事を考える …… 44

柴田直美

その「前提」は正しいですか？

園内研修で取り組む
園の危機管理 …… 46

脇貴志

人材育成

人材育成
わいわい語り場 …… 48
大豆生田啓友

みんなのSDGs
アイデア帳 …… 54
小西貴士 大豆生田啓友

保育内容

共に楽しく！
共に橋を架けよう！
ステップアップ
小学校との接続 …… 58
無藤隆 寶來生志子 宮下友美恵

一層の充実が求められる「小学校との接続」について、自治体のネットワークを活用して小・中学校までつながり、小学校との接続が進んだ幼稚園の事例を取り上げます。

基礎研究から学ぶ

赤ちゃん学 …… 60
三池輝久

始めよう
子どもの姿ベースの指導計画 …… 62
松山洋平 大豆生田啓友

実況中継

園内研修のプロセス …… 68
矢藤誠慈郎

歯医者さんが教える！
口の発達と健康 …… 76

藤原康生

歯並びの良し悪しは「運」だと思いませんか？
良い歯並びになるには「運」ではなく適切な食環境が必要です。どんなことに留意したら良いのか、一緒に考えていきましょう。

巻末

子どもと保育を思う日々から
無藤隆

様々な業界において活躍されている方々をお招きし、じっくりとお話をうかがいます。保育を捉え直そうとする際のきっかけが見つかります。

写真／渡辺 悟

保育者も正しい理解を 孤立を防ぎ、人と地域をつなぐ ソーシャルインクルージョン

親の貧困や孤立、児童虐待など子どもを巡る環境が年々悪化するなか、ソーシャルインクルージョンの考え方が注目されています。元厚生省母子福祉課長、環境事務次官で、日本に初めてこの理念を広めた炭谷茂先生に、1990（平成2）年の「第1次『保育所保育指針』改訂」の際、共に議論を重ねた増田先生がお話をうかがいました。

（対談は、2022年2月に、適切な感染症対策を施しながら開催しました）



聞き手

増田まゆみ

（ますだ まゆみ）

湘南ケアアンドエデュケーション研究所所長。元東京家政大学家政学部児童学科教授。専門は保育学。第1、2、3次『保育所保育指針』検討委員、「幼保連携型認定こども園保育要領（仮称）」の策定に関する合同の検討会議委員等を歴任。現在、多くの園で園内研修の指導を行いながら、保育団体等が開催する研修会でも講師を務める。

ゲスト

炭谷 茂

（すみたに しげる）

社会福祉法人恩賜財団済生会理事長。東京大学法学部卒業後、旧厚生省に入省。社会・援護局長、環境省官房局長を経て、2003年、環境事務次官に就任。2006年退任後、現職。現在、人権文化を育てる会代表世話人、環境福祉学会会長等も務める。官僚時代から一個人として、障害者、引きこもりの若者、刑務所出所者等の仕事づくりに従事。

特集

「保育者の感度」について考える



保育において感じる力＝「保育の感度」は保育者の重要な資質の1つですが、「保育者の感度をどう高めたらよいか」という声があります。そこで、佐伯 胖先生（東京大学名誉教授）と井桁容子先生（乳幼児教育実践研究家）による、2019～2021年度の本誌連載や、連載をまとめた新刊『子どもって、みごとに人間だ!』（小社刊）からエッセンスを抜き出し、「保育者の感度」について考えます。

佐伯 胖（東京大学名誉教授） 井桁容子（乳幼児教育実践研究家）
協力／保育の質を考えあうシンポジウム実行委員会



保育ナビブック

子どもって、みごとな人間だ！ —保育が変わる子どもの見方—

著／佐伯 胖 (東京大学名誉教授)、井桁容子 (乳幼児教育実践研究家)
定価／1,980円 (本体1,800円＋税10%)
80ページ、26×18cm ISBN 978-4-577-81504-5 108-13

佐伯先生と井桁先生による、本誌2019年度連載「子どもと同じおもしろさを感じる！ 子どもとおもしろさでつながる！ 乳幼児保育～実践と研究から～」と2020年度連載「毎日がwillの発見!! 0・1・2歳児の保育～実践と研究から～」に新規内容を加えてまとめた1冊。子どもの中にある感性や意欲に気付くには、保育者にはどんな感度が必要なのか。日常のふとした場面や姿に表れる子どもの見事な感性や意欲に寄り添う保育のセンスを養うために、10のエピソードと解説を掲載しています。

本誌2021年12月号

「対談！ 子どもの姿を通して考える 保育・子ども・人 ～実践と研究の見地から」

2021年度の本連載では、佐伯先生と井桁先生の対談により、子どもの姿を通して、これからの保育や子どもにとって大事なこと、人としてのあり方について考えました。12月号では「子どもの感性と大人の感度」というテーマで、子どもの感じている世界の豊かさに大人が気付くことの大切さ、保育者の感度について議論を深めました。



Contents

- 1 連載から見えてきた保育者の感度にかかわる
3つのポイント (編集部まとめ) …P.12
- 2 実践事例から保育者の感度について考える …P.14
- 3 提言 …P.18
佐伯 胖 — 保育者の感度を高める—井桁先生から学ぶこと
井桁容子 — 保育者の感度と園のリーダーができること



index

国の動き

34

国の動きを読む！ 研究者の目2022
〈文部科学省・内閣府編〉

「こども政策の新たな
推進体制に関する基本方針の
ポイント」について

36

地域別
持続可能な園になるために2022
特別編

保育の歴史的自己評価をめぐって

園経営

42

コンサルタントが読み解く
新時代の園経営

理念体系と世界観による
園ブランドの創造

44

保育園 新米園長が、
園長の仕事を考える

職員の個人面談

46

その「前提」は正しいですか？
園内研修で取り組む園の危機管理
プールの監視を
安全に行う

人材育成

48

人材育成 わいわい語り場
新人・実習生育成のための
工夫・課題

54

みんなのSDGsアイデア帳
食べる

保育内容

58

共に楽しく！ 共に橋を架けよう！
ステップアップ 小学校との接続
自治体のネットワークを
活用する〈後編〉

60

基礎研究から学ぶ 赤ちゃん学
ねむる
生きる力を育む子どもの睡眠

62

始めよう
子どもの姿ベースの指導計画
遊び中心の保育の
実態と乖離しない
記録・計画を
考えていくために

68

実況中継
園内研修のプロセス
園内研修、初期の課題

76

歯医者さんが教える！
口の発達と健康
良い歯並びは
すぎ間が大事

国の動き

園経営

人材育成

保育内容

コンサルタントが読み解く 新時代の園経営

少子化の影響もあり、経営環境が大きく変化している保育界。施設形態にかかわらず数多くの園へのコンサルティング経験のあるお二方が、これからの園経営において実践すべき12のヒントをご紹介します。

理念体系、世界観を明確に

桑戸…「地域になくなくてはならない園づくり」に必要な5つの要素として、2022年3月号特集に次の定義がありました。

・自園らしさ、長所、個性が明

理念体系と世界観による 園ブランドの創造

第3回

確である

- ・保護者の中に保育理念への共感者が多数いる
- ・職員が自園を誇り、組織への忠誠心が高い
- ・地域に真に必要な保育・教育機能を連携・多機能化している
- ・上質な広報・発信する力を有

大嶽広展先生
(株式会社カタグルマ)



桑戸真二先生
(フレーベル館
保育経営アドバイザー)



つづいて

これらを体系化して、より具体的に何をすべきかを考えていきましょう。

大嶽…地域になくなくてはならない園の共通点として、まず、その園の理念体系や世界観が明確に存在します。これは具体的に申しあげますと、

- ・園としての願い・意思
- ・自園らしさ・長所・個性

と言い換えることができます。

例えば、「子どもたちの生きる力を育む」という保育理念があった場合、その力を育むために、自然体験を重視しているとなります。その際に、その自然体験活動は園内外を問わず、その園らしい活動や特徴として周知されているのか、そこが重要です。

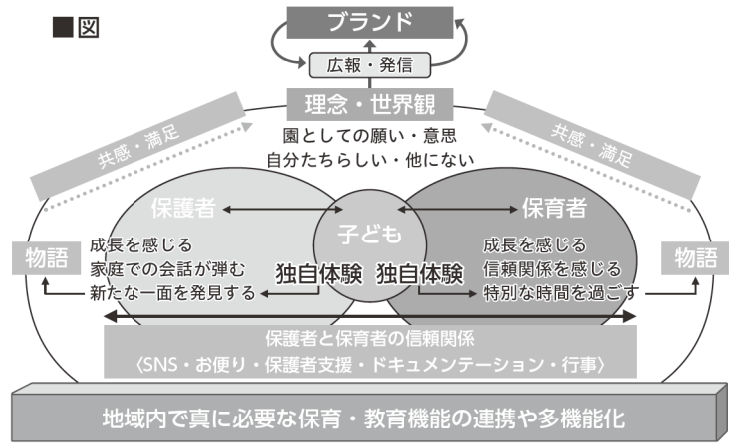
桑戸…その活動や保育の特徴が他園と比べて充実しているのか、

同じような活動になっていないか、その活動や特徴によって、生きる力がどの程度育まれているのか、これらを磨き込んでいく必要があるということです。大嶽…はい、その前提で、子どもを真ん中に置きます(図参照)。その子どもを囲む形で、保育者(園)が子どもと独自の体験を通じて成長を感じたり、信頼関係を感じたりしながら特別な時間を過ごすことで、様々な物語やエピソードが生まれます。

桑戸…これは保護者も一緒ですね。保護者と子どもが園独自の体験を通じて成長を感じたり、家庭での会話が弾んだり、子どもの新たな一面を発見したりして、家族の中に物語やエピソードが生まれるわけですね。大嶽…そうですね。近年はこの「物語・エピソード」の重要性が増していると思います。これらを通して、改めて園の理念や世

*「保育ナビ」2022年3月号 特集「保育新時代の園経営 地域になくはない園づくりに必要な園マネジメント」 p17

プロフィール●桑戸真二(くわと しんじ) / (株)フレーベル館 保育経営アドバイザー。(株)福祉総研 代表取締役。幼稚園、保育園、認定こども園の経営コンサルティングなどを手がけ、関係省庁・団体とのつながりも深い。



界観に共感し、保育者であれば成長を感じ、保護者であれば「入園させて良かった」といった満足につながります。

桑戸…これらの園にはそんな雰囲気や自然と園内に充満しており、保育者も保護者もますます理念や世界観に対する想いが強くなっていくということですね。

加えて、保育者と保護者の関係においても、同じことが言えると思います。

大嶽…保育者と保護者の信頼関係も年々重要性が増しているのを感じます。

送迎時のコミュニケーションや行事、参観、面談、お便りなどの以前からのコミュニケーションはSNSによるコミュニケーションやドキュメンテーションによる保育の可視化、さらには「保護者支援」の文脈における様々なかわりによって、この信頼関係が形成されています。

園に重要な「ブランド」をわかりやすく定義すると

桑戸…先ほどのように、子どもを真ん中にして保育者も保護者も理念や世界観への共感が強まっていけば、さらにこの保育者と保護者の関係性や絆も深まっ

てきますね。

また、日々の保育によるそれぞれの体験だけではなく、「地域になくてはならない園づくり」の定義にもある、「地域に真に必要な保育・教育機能を連携・多機能化している」という仕組みや、環境、地域連携などの視点から必要な機能を有しているか、という考え方も重要ですね。

大嶽…はい、それらが、その園のもつ理念や世界観から構成されていることが重要です。

さらに、それらを園内外問わず、広報・発信していくことで、徐々に染み出してくるのが、「ブランド」です。

ただ、「ブランド」というのは抽象的でわかりにくいと思います。

「ブランド」を定義する方はたくさんおられるのですが、それらを集約して園にあてはめると、「自園にしかない地域へ

の貢献と約束」と定義することができそうです。つまり、「あの園は〇〇である」「あの園は私の〇〇を叶えてくれる、満たしてくれる」「あの園は〇〇だから好き」と価値の受け手（地域や保護者）主導で創造されるものです。

桑戸…それが明確につくられている園は、「地域になくてはならない園」として、地域から必要とされ、応援され、愛されるということですね。

そして、その結果、地域や保護者から選ばれる状態がいくら、無理な園児募集活動をしなくても自然に人材も保護者も子どもも集まってくるということなのでしょう。

大嶽…私はこれを「ブランド創造サイクル」と呼んでいます。まさにこのサイクルを園がいかにして構築するかが問われる時代なのだと思います。

次号は「保育理念の浸透・定着を図るために」です。

※より良い企画のために、変更になる場合があります。

『保育ナビ』編集部からお知らせ

毎月1名様に
QUOカード(3,000円分)を
プレゼント

Present!

『保育ナビ』へのご意見・ご感想をお寄せください。

『保育ナビ』に関するご意見・ご感想をお待ちしています。応募は巻末のアンケートハガキから!
(6月号の応募締切は6月末消印有効です)

『保育ナビ』の情報をもっと!

『保育ナビ』編集部では、4つのメディアでも保育情報を配信しています。

保育に役立つ情報がつまった
メールマガジン「保育ナビ倶楽部」

https://www.froebel-kan.co.jp/navi_club/



『保育ナビ』の公式 Facebook

<https://www.facebook.com/froebelkan.hoikunavi/>



『保育ナビ』の公式 web サイト

<https://www.hoiku-navigation.com/>



『保育ナビ』YouTube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCP4zj6p_z7LQ-G0ecoFY1fQ



保育ナビ

『保育ナビ』編集部からお知らせ

保育に役立つ情報が詰まった メールマガジン『保育ナビ倶楽部』

新企画もスタート! 登録はお早めに

『保育ナビ』年間購読者限定のメールマガジン『保育ナビ倶楽部』(登録無料)。保育に役立つ情報をメールマガジンでお届けします。

配信情報の一部を紹介

- ★井桁容子先生解説動画
「0・1・2歳児保育」(毎月)
- ★河邊貴子先生執筆 「暮らし」のエッセイ(隔月)
- ★田澤里喜先生執筆 「情報発信力」コラム(毎月)
- ★桑戸真二先生監修 「園経営」コラム(隔月)
- ★フレーベル館の新刊情報やセミナー情報(随時)



3分で
登録
できます

会員登録は、こちらから→
[https://www.froebel-kan.co.jp/
navi_club/](https://www.froebel-kan.co.jp/navi_club/)



イラスト●すみもとなみ

保育ナビ

フレーベル館 新刊のご案内

日本で最も長い歴史をもつ幼児教育研究誌 『幼児の教育』春号が刊行されました

日本で最も長い歴史を持つ幼児教育研究誌『幼児の教育』（創刊1901年）。同誌は、日本の幼児教育の父と呼ばれる倉橋惣三の理念をはじめ、様々な視点で幼児教育の本質を見つめ、次世代につないできました。2022年春号では、倉橋惣三生誕140年を記念して「今また考えよう、倉橋の子ども学」を特集します。

第一線の保育研究者による提言、現場の保育者による実践報告もあります。

『幼児の教育』の購読方法

フレーベル館の代理店・特約店・営業所または、オンラインショップ
「つばめのおうち」(<https://www.froebeltsubame.jp>) からどうぞ。



幼児の教育 2022年春号

編 / お茶の水女子大学

『幼児の教育』編集委員会

価格 / 968円 (本体880円 + 税10%)

21×15cm、64頁、年4回発刊

商品コード 884

フレーベル館主催セミナーのご案内

フレーベル館 2022年6・7月開催 保育オンラインセミナー ※7日間の見逃し配信付き

幼稚園・保育所・認定こども園の保育者様を対象としたLIVEオンラインセミナーをご紹介します。

保育記録の書き方・生かし方

～質の高い保育実践のために～

子どもの姿を的確にとらえ、さらに保育の質を高めていくために、どのように保育記録を残していくべきなのでしょう。保育記録の意義・役割、さまざまな保育記録の取り方などをお伝えするセミナーです。ご自身の保育記録が次の保育に生きる内容になっているか、再確認するきっかけにいただければと思います。

開催日：6月20日(月)

開催時間：13:15～14:30(75分)

価格：5,500円(税込)

講師：田代幸代先生
(共立女子大学教授)



保育と自然の関係を考える (全3回)

自然を消費する社会から自然と共に生きる社会への転換が起こる昨今、保育を行うなかでも自然との関わり方について改めて考える必要があります。本セミナーでは、これからの時代の保育や子どもにとっての自然の意味について、また、園での実践から考えていく課題やその解決へのアプローチについて取り上げていきます。

開催日：7月6日(水) 第1回 時代に合わせて考えよう

9月14日(水) 第2回 子どもと自然をつないでみよう

11月9日(水) 第3回 実践から考えよう

開催時間：13:15～14:30(各回75分)

価格：各回5,500円(税込)

3回まとめてお申し込み16,500円(税込)

講師：小西貴士先生
(森の案内人/ぐうたら村共同代表)
※第1・3回

増田直広先生
(鶴見大学短期大学部講師)
※第2回



※ウェブ会議サービスZoomによるオンラインセミナーです(見逃し配信には動画共有サイトVimeoを使用します)。

※セミナーの詳細は申込フォームにてご確認ください。 ※よりよい内容のセミナーにするため、一部変更となる可能性があります

申込方法・セミナーの詳細はフレーベル館
ホームページからご確認ください。
(右の二次元コードからアクセス、もしくは「フ
レーベル館 セミナー」で検索してください)

【問い合わせ先】
株式会社フレーベル館 セミナー事務局
メール：seminar@froebel-kan.co.jp
電話：03-5395-6637

